



巻頭言 「住宅に係る問題点」

塾長 釜中 明

「問題」とは何か

いい家塾 19 期第 2 講基礎編フェーズ 3 は、日本の住宅事情「住宅に係る問題点」でした。その対象は、行政、住宅産業界、消費者、大学の 4 分野の各問題点を抽出し解説した。

先ず「問題」とは何か?を塾生に問うてみた。

問題とは、「当事者が認識しない限り存在しないものであり、正常方向から逸脱した状態をいう」と定義。

前東京都知事舛添要一氏の辞任に至る事象が、恰好の問題であったので事例に引用した。この場合、正常方向とは政治資金規正法そのものであり、これの順守である。彼の問題は、政務活動費という公的資金を私的に使った公私混同が正常方向から逸脱したのだ。氏は弁明に終始し反省と謝罪のないまま辞職に至った。多くの関心事であったので理解が得られた。私は経営コンサルティングの現場で顧客企業の問題提起から課題解決や経営戦略構築などで活用し役立ててきた。

さて、本塾の設立理由は上記 4 分野の住宅に係る問題点が余りにも多く深刻であったからに他ならない。家を買って「こんな筈ではなかった」と後悔する消費者が余りにも多く後を絶たないからだ。

「住宅産業界の問題点」

我国の住宅の平均耐用年数が 26 年という短命住宅であり、これではローンを払い終わる前に寿命がきて、建て替えなければならない理屈になる。また欠陥住宅など資産価値のない家も多い。住まいの五重苦は、シックハウス・コンクリートストレス・断熱・結露・音の問題で、これらは健康を害し多くの疾病を生み、社会問題に発展し訴訟問題も多く発生している。

大手ハウスメーカーの戦略は、新築し 15 年後にリフォーム、30 年未満で建替えるというワンセットのシナリオで運営している。工業化偏重の住宅政策は、世界に誇る日本の木構造建築技術を否定し技術の衰退を助長している。零細な工務店の存続を圧迫し、日本の伝統ある木構造技術が消滅していく危機です。なにより、住宅は ONLYONE が基本であり常識なのに画一的な大量生産大量販売大量廃棄の企業戦略は傲慢横暴といわざるをえない。その結果、地域の工務店や優秀な技術職人が活動の場を失った。地方の過疎化の主因は地場産業の衰退という悲しい現実がある。

「行政の問題点」

建築基準法は、建築物の敷地・構造・設備・用途などについての最低限の基準を定めたものです。

「いい家造り」に携わる者として、現行の建築基準法は多くの矛盾点があることに悩んできた。なぜシックハウスや短命住宅など欠陥住宅が後を絶たないのか?

実は、これらの商品の多くは合法なのです。建築基準法という最低限の基準をクリアしている。例えば、クレーム 3 悪と云われる「結露・断熱・防音」について基準すらない。故に、建築基準法通りに建てたからといって、住まいの五重苦が無くなるとは限らない。

本塾では、「日本の家づくりに哲学をもたせたい」との思いから「100 年住宅で個人経済を豊かにし、善き家族制度を復活する運動」などを続けてきた。子供や孫にまで残してあげられる長寿命の家、いつまでも住み心地の良さを提供し続ける快適な家にこそ、大金を払う価値がある。

そこで、日頃住宅建築の現場で感じてきた諸問題を列挙し、その改善策や新しい指針を「建築基本法」早期制定への「提言書」として以前国土交通省に提出した。

「大学の問題点」

問題の根源は大学にもあった。建築学科では化学物質の有害性を教えてこなかったので「シックハウス」が蔓延した。鉄筋コンクリートが、体の芯から体熱を奪う「冷放射」を教えていないので「コンクリートストレス」被害が深刻である。木造住宅を造らせない教育が今も行われていて、1 級建築士で木造住宅の設計が出来るのは 50 人に一人といわれる。森林率世界第 3 位の森林王国でありながら、再生可能資源の木を使わずコンクリートの打ち放のビルやマンションが蔓延し健康と命を削っている。コンクリートと鉄の崇拜主義が大学に存在する。

「消費者の問題点」

「知らない」状態で高額な家を余りにも安直に購入してきた。そこで、無防備な消費者に講座で最適な知識と最新の情報を提供して「善品と悪品」を峻別できる賢明な消費者の排出を实践し塾生 600 名が卒業した。悪品を買わないという消費者の自己防衛から、健全な住宅市場が誕生することを願う。

拙書、後悔しない家造りの教科書 II 『いい家塾の家づくり』～住み心地のいい家とは「夏涼しく冬暖かいし自然素材の健康住宅」～ JDC 出版刊。公益社団法人「日本図書館協会選定図書：工学・技術部門」に推奨された。本書は、家づくりの実行前に知っておきたい多くの問題点を網羅。さらにその解決策を提示。「問題提起から解決策その成果物まで」という類書にない構成に纏めた。「後悔させない、いい家づくりの種と仕掛け」と「肝」を満載した。お役立て頂ければ幸いです。



16期生 2家族のいい家が完成しました！

サポーター 一級建築士事務所 アトリエ2馬力 吉田公彦

小豆島 Y邸

いい家塾もついに香川県まで「進出」です!!小豆島のY邸敷地は高松からフェリーや高速船が入り出る草壁港からほど近い所にあります。実は国土交通省により離島振興法の指定を受けた「離島」である小豆島は、その為に建築資材の流通など、本土なら何でもないことにあるいろいろな制限、制約があり、又職人の確保が難しく結果、工期が伸びたりもするということにもなりました。

「いい家塾仕様」の家を建てるには島内の業者さんだけでは難しい部分があるため、徳島県に本拠を置く番匠中山さんに施工を担当していただきました。サッシや内部建具などは徳島から納入していただくなど初めてづくしの家の建て方になりました。

最初の現地調査が2014年2月。そこから打合せ、設計を進めつつ小豆島の役所や現地にも行き、地元の業者さんと打合せつつ進めて、地鎮祭を2015年4月10日に行い着工。上棟は6月16日に行い、完成引き渡しは事務局の釜中悠至さんに出席いただいて年の瀬の12月28日に行ないました。その後、外構工事等にも時間を要し今年6月にほぼ完成いたしました。



施主のY様は大阪市福島区在住なので打合せは近いのですが、延べ15回程通った小豆島へは船便で3時間のため、1日仕事です。施工者は徳島で・・・ということで連携の取り合いが中々スムーズにいきませんでした。

それでも梶原町森林組合で伐採祈願していただいた8寸角の大黒柱や杉板のフローリング、天井板等、無垢の木に囲まれたリビングルームや主寝室など見所がいっぱいです。和建築が得意の番匠中山の大工さんの腕が活かした2間続きの2階の和室、軒の深いバルコニー、阿波指物師の手による玄関戸、家塾らしい住まいを小豆島で実現できた事は大きな成果だと思います。本塾の標準装備である断熱、Z工法もセルローズファイバーの運搬で一度に運ぶ量が限られる(フェリーに乗って中型トラックで運ぶため)など、少々汗をかきましたが、無事住み心地のいい家が完成しました。



建築地 : 香川県小豆郡小豆島町
構造: 木造在来軸組工法2階建て
延床面積: 132.74㎡

福山市 S邸

「崖の上のポニョ」で有名になった瀬戸内海の景勝地「鞆の浦(ともうら)」。そこへのアクセスの拠点が広島県第二の都市、福山市です。16期生としてこの福山から全10回の講座に新幹線「通学」で出席されたSさんの住まいは、2015年10月10日に地鎮祭をして着工。11月17日上棟、12月の中間検査を経て、今年4月に完成。4月23日には釜中塾長に出席いただき引き渡しを行ないました。



JR福山駅に歩いて行け、大型スーパーが直近にあり学区も良く、利便性の高い好立地です。しかし現地は近隣商業地域で準防火地域でもあったため、いろいろな工夫が必要でした。

工夫その1・・・建築費を抑えながらも自然素材など住まいの質は落とさず、建物の延べ面積は小さめにしました。

工夫その2・・・準防火地域でも木の玄関戸の実現や防火サッシを減らすべく建物の南側に3m以上の庭スペースを設けた。

工夫その3・・・空間の仕切りは最小限にした大きめの部屋割り。

工夫その4・・・内部の建具は既製品(工務店が探してくれた無垢材を加工した木製建具)と割り切った。などなど

それでも階段と手摺が大黒柱と共にアクセントになった吹き抜けのリビングルームは、ほど良い明るさで心地良い風が吹き抜ける空間になりました。セルローズファイバーや熱反射シートによって、夏でも暑さを感じにくいロフトも適度な広さの物置きスペースとして重宝しそうです。当初計画していた玄関収納庫をなくして1階の多用途室に収納の役割をもたしています。

梶原町森林組合で伐採祈願をした、7寸角の通し柱はリビングルームから2階の寝室まで貫き通してリビングからも全体が見える形で生きています。徳島の指物師に制作してもらった玄関の引き戸は杉の「源平」の模様をうまく生かした美しい「顔」を演出し、踏みみの平板瓦と共に素敵な出入口空間を創り出しています。

いろいろな法規制やコストの制約の中、オンリーワンの住み心地のいい家が出来上がりました。S様のご家族と共に成長し、永生きして欲しいと願うばかりです。



建築地 : 広島県福山市吉津町
構造: 木造在来軸組工法2階建て
延床面積: 83.39㎡+ロフト16.00㎡

丹波篠山の家、完成しました

サポーター 一級建築士事務所 NaO Design&Partners 井上直大

兵庫県の丹波篠山で進めておりました18期生Mさんのお住いが4月無事に竣工を迎えることができました。

昨年4月から計画がスタートし、ちょうど一年での竣工となりました。設計・施工ともに少しペースを早めた計画であり、さらに遠方での工事ということもありましたがとても丁寧かつスムーズに工事を進めていただいたおかげで大変上りのうつくしいお住いとなりました。

このお住まいの大きな特徴は構造体である柱・梁をできるだけ現(あらわ)しにしたという点です。本来は壁や天井の中に隠れてしまう柱梁をできるだけ仕上げ材として表に出すことで木組みの美しさ、力強さを味わうことができる室内空間としています。

そして随所に和の要素を散りばめながら、畳の部屋、板間の部屋、里山を眺める書斎、船底天井の寝室などそれぞれに違った趣きのある居室となっています。

昔の日本家屋のようにできるだけ壁で間仕切るのではなく建具で間仕切っていくことでさまざまな居場所を作り出せるような設計を心がけました。

さらに家の中心に設けられたインナーバルコニーや吹抜けから家全体に柔らかな陽光が届き、空間に変化を創り出すとともに内と外があいまいになっていくことでさらなる広がりや得られるような空間づくりをしています。

今後経年変化によって現しで使った木材がどんどん深みを増していくことと思います。これからの成長がとても楽しみなお住いとなりました。

‘エアコンゼロ’ 卒業生のお宅見学会

事務局 金中悠至

一年で最も暑い8月初旬に、6年前に河内長野市で家を建てられたOさん(8期生)のお宅の見学会を開催しました。19期生を中心に15名の方が参加してくださいました。Oさんは現在ご夫妻と大学院で学ぶ次男の3人暮らしです。この家は床面積109㎡の2階建て。リビングの吹き抜けや、大きな梁などふんだんに木や自然素材を使っているのも見所ですが、大きな特徴はエアコンが無いということです。見学をお願いをした時に「住んでみて感じたことはどんなことでも言ってください」と伝えましたが、さてどうなったのでしょうか? 百聞は一見にしかず、ということで真夏のお宅訪問記です。

当日は猛暑日! 待ち合わせ場所の駅では日陰にいないと倒れそうな暑さです。外気温が35度ほどあったのですが、参加された皆さんはリビングで口を揃えて「涼しくて過ごしやすい!」とっていました。南側に大きな窓があるのですが、断熱にセルローズファイバーのZ工法を採用したり、軒と庇を長くとり、四方からの風の通り道を作っておけばエアコンに頼ることなく快適に過ごせるということが体験できた良い機会だったと思います。

塾長からOさんが家を建てることになった経緯や思い出を伝えたと、施工を担当したサポーターの山本啓二さんから、家が出来るまでの過程をスライドで解説しました。土地選びのことや上棟式など我々にとっても懐かしい写真から、施工途中の今は隠れてしまっている構造のことを中心に説明。Oさんからはこだわりのポイントや、5年間住まれた上での話しを伺いました。以前も戸建て住宅に住んでいたのですが、冬は寒い、夏は暑いなど不満があったが、今の家は本当に心地良い空間で気に入っているとのこと。これには参加者の皆さんも「うんうん」と納得の表情です。説明を受けた後、2階も案内していただきました。あまり多くの物をもたないOさん家族、収納も最小限にしつつ、有効に空間を使っている点に興味津々です。



参加者の皆さんからは、「家を愛しているのがすごく伝わってきた。大事に住むことで家と一緒に成長しているように感じる」「モデルハウスなどの生活感のない家と違い、綺麗になじんだ杉の床板など、数年実際に住んでいる空間はとても参考になる。私も同じような家が欲しい」「住んでいる人に実際に話しを聞いて、今後の家造りに活かすヒントがたくさんあった」等、嬉しい感想が聞けました。

既に生活されている家を見せていただくことはなかなかありません。家は完成した時一番価値があるというのは世間の定説ですが、住み心地のいい家を、愛着をもって丁寧に暮らすことで、家の良さは年輪のように増え続けていくんだなと感じるとも貴重な時間でした。快く受け入れていただき本塾の活動に協力したいと言ってください。Oさんに心から感謝いたします。



建築地 : 兵庫県篠山市東岡屋
構造 : 木造在来軸組工法 2階建て
延床面積 : 109.29㎡

よつ葉の楽しい食事と快適な家造りの話

そろそろ秋の気配。秋といえば、お家で食べる温かくおいしい食べ物ですね。

この度、安心な食べ物をお届けする「よつ葉」と、安心して快適な家造りを提案している「いい家塾」、そして会場を提供して下さる「大阪ガス」との協同のイベントを開催します。

いい家とはどんな家？「夏涼しく冬温かい住み心地のいい家」づくりのお話を聞いたあとは、世界で活躍されているピッツァサルヴァトーレクオモ大西誠さんの本場ナポリピッツァ作りについてのお話と実演、試食。

さらにワインをはじめ、様々なよつ葉のイタリア食材の試食と即売会など盛りだくさんのイベントです！



プログラム

- 1、長期間安心して住める家造り（いい家塾 釜中明）
- 2、ナポリ・ピッツァ講座（ピッツァサルヴァトーレクオモ 大西誠さん）
- 3、大阪ガスからのご挨拶とご案内

日 時：平成 28 年 9 月 22 日（木・祝）10:30～15:30

会 場：大阪ガス ハグミュージアム 5 階ハグホール

大阪市西区千代崎 3 丁目南 2 番 59 号

（大阪市営地下鉄 長堀鶴見緑地線「ドーム前千代崎」駅 1 番出口より徒歩 3 分）

参加費：大人 1,000 円

申込み：いい家塾 事務局までメールか FAX で、氏名／住所／連絡先／参加人数をお知らせください。

応募締め切り：9 月 9 日

主催：関西よつ葉連絡会 共催：いい家塾



いい家塾 まち歩き企画 東成編

暗越奈良街道（くらがりごえならかいどう）沿いに残るまち並みや、いい家塾が監修した家を巡るまち歩きを開催します。大阪（難波）と奈良（平城京）を結ぶ最短路としてつくられた暗越奈良街道。江戸時代中期にはお伊勢参りの旅人で賑わったようです。今里駅周辺の街道筋は当時を偲ばせる風情ある家が残っております。また、いい家塾が 3 年前に監修した家の訪問が今回の目玉。リビングの薪ストーブや、建て替え前に庭に立っていた榎の樹を床柱に使用したり、自然素材たっぷりの心地良い室内。まちを見て歩き、家のあり方を考える今回の企画。ぜひ皆さんご参加ください。



日 時：平成 28 年 11 月 5 日（土）14:00～17:00

（終了後懇親会予定）

参加費：1,000 円

集 合：大阪市営地下鉄「今里」駅 7 番出口

定 員：15 名

申込み：いい家塾事務局まで FAX かメールで

氏名／住所／連絡先／参加人数をお知らせください。



編集後記

いつもお世話になっている栲原町森林組合から自宅で使うキッチンカウンター用の杉の天板（2500mm×500mm）を購入した。足は収納を兼ねたカラーボックス、塗装は自分でおこなったが、良い出来で非常に満足している。自然素材の建材を使っていない賃貸の部屋に、せめてひとつだけでもとこだわった部分だ。画一的につくられたものと違い、命を感じる杉板が入ったことで落ち着く空間になった。木のある暮らしは良いと改めて感じているこの頃である。【編集人】

後悔しない家造りネットワーク 一般社団法人 いい家塾

発行人：釜中 明 編集人：釜中 悠至

本部・事務局：大阪市天王寺区生玉寺町 1-13-6F Tel：06(6773)3423 Fax：06(6773)3420

URL：<http://e-iejuku.jp> E-mail：info@e-iejuku.jp